Ecospi Photo
エコスピフォト

那智の滝、聖地の森の春化粧

熊野の春は長い。節分を超えるとすぐに春の芽吹きがあちこちではじまり、冬のこわばった空気がふっとゆるむ陽気漂う日が増えてくる。黒潮の影響をうける熊野の海岸線では、山桜がほころびはじめ、初夏の気配漂う5月までちらほらと咲いている。

自然信仰のシンボル、那智の滝と聖地の森、那智原始林（ともに世界遺産）の春。4月上旬には那智山の桜も見頃となる。緑の山に霞をかけるように咲く山桜は、クスクスッと微笑みがこぼれているようで愛らしい。青岸渡寺、三重の塔の山桜の合間から、3筋の御滝が清（すが）しい水しぶきのベールを広げている。新緑の息吹も加わって、聖地はひときわ、みずみずしい空気で満たされている。

那智の滝神域の森「那智原始林」。春から初夏、多様性の宝庫といわれる森の新緑は実に多彩で、木の種類と同じ数の緑の色彩が油絵のように重厚に盛り上がり、まさに「山笑う」熊野の森となる。

写真／楠本弘児